

平成 30 年度重点研究の総合評価結果（事後・中間）

○事後評価（終了課題）

課題名	担当機関	研究期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
			妥当性	目標の達成度	活用可能性	評価	評価	意見
土壌凍結深制御技術を応用した畑地の理化学性改善による生産性向上	○北見農業試験場 十勝農業試験場	H27-29	b	b	b	B	B	土壌凍結深度の具体的な制御手順を示し、生産現場での普及拡大を図ること。
樹木内部欠陥を非破壊測定する装置の開発	○林業試験場 工業試験場	H27-29	b	b	b	B	B	道内の街路樹管理の場面において、簡易診断機および精密診断機の精度検証を行うとともに、製品化による普及拡大を進めること。
カラマツ中大径材木による心持ち平角材の利用拡大技術の開発	○林産試験場 北方建築総合研究所	H27-29	b	b	b	B	B	製材企業による生産が着実に進むように、必要となる設備投資の採算性を示し、建築業界を巻き込んで利用促進を図りながら普及に努めること。
道産カンパ類の高付加価値用途への技術開発	○林産試験場 林業試験場	H27-29	b	b	b	B	B	住宅、家具等におけるブランド化や利用拡大に向け、戦略的に普及を進めること。
じゃがいもの自動芽取り・傷み除去システムの開発	○工業試験場	H27-29	b	b	a	B	B	食品加工企業での実用化が着実に進むよう普及を図ること。併せて、さらなる性能の向上、全自動化を検討すること。
積雪寒冷地におけるコンクリート劣化の分析評価技術の開発	○工業試験場 北方建築総合研究所	H27-29	b	b	b	B	B	開発した X 線 CT による分析技術の普及を図りつつ、実構造体の劣化評価に必要となる劣化モデルの構築に継続して取り組むこと。
魚貝類の加工・保存に伴う「におい」発生要因の解明と抑制技術の開発	○食品加工研究センター 中央水産試験場 網走水産試験場	H27-29	b	b	b	B	B	コストなどを意識した実用的な処理・加工条件を明らかにし、技術の普及拡大に努めること。
日本海沿岸域における過去最大級津波の復元	○地質研究所	H27-29	b	b	b	B	B	市町村などの地域社会へ成果を広く公表し、防災教育への活用を図ること。

○中間評価（継続課題）

課題名	担当機関	研究期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
			進捗状況	達成見込み	活用可能性	評価	意見	意見
保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立	○上川農業試験場 花・野菜技術センター 道南農業試験場 北方建築総合研究所	H29-31	b	b	b	B	冬季にどんな品種、品質の作物を作るのが最適かの栽培目標を明確に定め、それに必要な室温・地温を維持できる無加温制御技術について詳細に検討すること。また、ハウス温度や日射の影響を加味した積雪荷重に基づき、耐雪性の検討を進めること。	冬季にどんな品種、品質の作物を作るのが最適かの栽培目標を明確に定め、それに必要な室温・地温を維持できる無加温制御技術について詳細に検討すること。また、ハウス温度や日射の影響を加味した積雪荷重に基づき、耐雪性の検討を進めること。
道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立	○花・野菜技術センター 工業試験場	H29-31	b	b	b	B	栽培から貯蔵、出荷に至る実際の生産現場を想定し、条件の最適化を図ること。特にメロンの品質に影響する貯蔵温度、湿度条件についてより詳細に検討すること。	栽培から貯蔵、出荷に至る実際の生産現場を想定し、条件の最適化を図ること。特にメロンの品質に影響する貯蔵温度、湿度条件についてより詳細に検討すること。
牛白血病ウイルス清浄化を目指したウイルス伝播防止技術体系の構築	○畜産試験場	H29-31	b	b	b	B	ウイルス検出方法や各伝搬防止対策、それらの組み合わせ効果について詳細に検討し、シミュレーションの妥当性を検証すること。乳生産量の増加などウイルス清浄化対策のプラスの効果も明らかにし、生産現場が積極的に実践できる技術体系を構築すること。	ウイルス検出方法や各伝搬防止対策、それらの組み合わせ効果について詳細に検討し、シミュレーションの妥当性を検証すること。乳生産量の増加などウイルス清浄化対策のプラスの効果も明らかにし、生産現場が積極的に実践できる技術体系を構築すること。
日本海海域における漁港静穏域二枚貝養殖技術の高度化と事業展開の最適化に関する研究	○栽培水産試験場 函館水産試験場 中央水産試験場 地質研究所	H28-31	b	b	b	B	日本海における二枚貝養殖の確立に向け、最適な養殖技術と養殖の優位性を活かしたビジネスモデルの構築に努めること。	日本海における二枚貝養殖の確立に向け、最適な養殖技術と養殖の優位性を活かしたビジネスモデルを構築すること。
カラマツヤツバキクイムシ被害拡大抑制技術の開発	○林業試験場	H29-31	b	b	b	B	他の研究事例を活用し、北海道におけるクイムシの発生要因と被害の拡大過程の解明、抑制技術の効果検証を一層進めること。	他の研究事例を活用し、北海道におけるクイムシの発生要因と被害の拡大過程の解明、抑制技術の効果検証を一層進めること。

○中間評価（継続課題）

課題名	担当機関	研究期間	研究評価委員会の評価結果				総合評価	
			進捗状況	達成見込み	活用可能性	評価	評価	意見
道産広葉樹を原料とした粗飼料の開発	○林産試験場	H29-31	b	b	b	B	B	品質を安定化し、製造コストを低下できるような製造条件を見出すよう検討を進めること。また、実験精度に留意して給餌実証実験を進めること。
大型産業機械部品のメンテナンスに向けた環境調和型洗浄技術の開発	○工業試験場	H29-31	b	b	b	B	B	研究終了後の成果普及を確実なものとするよう、状況変化を踏まえて研究の目標及び方法を精査しながら進めること。
ニセコ地域における地熱構造モデル構築と地熱資源量評価	○地質研究所	H29-31	b	b	b	B	B	地域の地熱資源の持続的利用に向け、地熱を発電に利用する場合における周辺の温泉量等への影響に留意し、シミュレーションモデルの高度化を検討すること。また、地元協議会等へ積極的に成果を提供するなど、成果の普及を見据えて取り組むこと。
道産資材を用いた木造高断熱外壁の防耐火構造の開発	○北方建築総合研究所 林産試験場	H29-31	b	b	b	B	B	道産資材の特徴を生かし、他製品との差別化を意識して開発を進めること。
津波による最大リスク評価手法の開発と防災対策の実証的展開	○北方建築総合研究所 林業試験場 地質研究所	H29-31	b	b	b	B	B	実証的展開への道筋を明確にしながら研究を進めること。

※中間評価 1 課題については非公表